



公表

事業所における自己評価総括表



○事業所名	希望のひかり			
○保護者評価実施期間	8年 3月 1日		～	8年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	8年 3月 1日		～	8年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	* ご家族、学校、他事業所等との連携が強い！ 子どもたちを取り巻く大人がつながることで、1人1人の将来を考え、切れ目のない支援を実現していくことができる。	* 情報はその日のうちに共有する(特にご家族)！ 利用日は連絡帳もあるが、必要な方には電話やライン等でご連絡を入れ、細かな情報共有をすることでその後の対応が早めに可能となる。	* トライアングルプロジェクトの推進・利用！ ご家庭・学校・事業所の連携を当たり前にしていく手段として更に活用していけるよう更に周知をしていく。サポートブックの活用も積極的に行っていく。
2	* 大人のひかり実施！ 「本人だけでなく家族も楽しみたい！」という声からスタートした取り組み。ご両親・きょうだい児・祖父母様・ご友人と多くの方が集い、レクリエーションや勉強会等を開催している。	* 1年に3～4回の実施！ サービスご利用中の方以外に卒業生も対象なので、毎回かなりの応募人数です。そのため実施回数を増やして、できるだけ多くの方に参加していただけるようにしている。	* ベアレントトレーニングの実施！ 日々のご家庭での子育てが少しでも楽になる様にベアレントトレーニングの研修会を今後実施したいと考えている。まずは職員の学びから始めます。
3	* 環境資源が多い！ 法人所有の公園やB型事業所であるパン屋等にお客様がたくさん来るため時間を共にできる環境がある。また、地域も快く受け入れてくれている。	* 楽しい・嬉しいから学ぶ！ パン屋では、食べたいパンを選ぶこと、並ぶこと、待つこと、そっと触ること等を練習。公園では譲ること、譲られること、協力すること等をそこに来ている子どもたち(外部)と共に学ぶ。	* 環境資源の活用を！ 敷地内環境と同様、町内会の組長や班長を経験しながら地域住民とのコミュニケーションを重ねてきました。今後は地域防災訓練等への参加も実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	* 生活空間の改善Ⅰ 活動によってレイアウトを変えたりしているが、日によって手狭と感ずることある。	* 仕切りはあるものの、活動室がひと部屋！ 必要に応じた個別の部屋を提供できていない。あまりにも辛そうな時は、外に出て落ち着いてから戻ってくる。	* 移転 昨年までは建替えを予定していたが、行政施策の関係で困難になった。そのため、代替案を提出中。
2	* 生活空間の改善Ⅱ 建物が古いせいもあるが、清潔感がもっと欲しい。	* 各トイレ、活動室の整理整頓を！ 古いしあまり手をかけられていない。	* 棚などの設置及び交換等！ 使い勝手等を再度検討し、もっと子どもたちがわかりやすい空間づくりをしていく。
3	* 職員の資質向上 もっと外部研修へ行きたい！	* 研修の時間と場所 勤務時間は午後からが多く、研修も午後(サービス提供時間)開催のものが多く参加できない。	* 研修等参加に向けて！ e-learningの活用等の検討。GSV等を取り入れ、事業所内での研修に力を入れる。



公表

保護者等からの事業所評価の集計結果



事業所名	希望のひかり
------	--------

公表日

令和8年3月23日

利用児童数

29名

回収数

22名

	チェック項目	利用児童数				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	2	1			
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	18	1	2	1		配置基準数の資格保有者が支援している。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	2		1		子どもたちにわかりやすい構造化を学んでいきたいと考えています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20	2				
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	3				まずは「楽しい」と感じていただくことが大切です。安心して楽しむことができるとも増えていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21			1		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22					計画作成のためのアセスメントやニーズ整理等に関して、更に学びを深めてまいります。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	22					ご本人が楽しんで取り組んでいけるような内容の計画を目指します。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	2	1			ご本人の興味を引き出すまでに時間が必要な場合もあるので、一時的に固定化に見えることもあるかもしれません。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	6	3		13		特別に準備した機会ではなく、法人が取り組んでいる公園や日常のお客等様と場を共有することは多い。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22					皆さんに満足していただけるよう、丁寧な説明を心がけていきます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16	2		4	・なかなか参加できていませんが、開催されているのは知っています。	今後はご家族の参加できる研修会なども実施していきたいと考えています。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	22				・ちょっとしたことで、お電話などで連絡をいただいたり、面談で伺って安心しています。	私たちがとても大切にしていることのひとつです。とにかくご家庭とのやりとりを大切にしていけることが子どもたちを支えることにつながります。良いこともそれ以外も伝えあい、一緒に歩んでいける関係性をつくっていききたいと考えています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22					できる限りご希望された時にご相談等お受けしています。電話でも対面でも可能です。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22				・いつも親身になり支援していただいと感じます。	仕事でありながらも「自分事」として捉えられる職員です！
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	2	1	4		きょうだい児へのアプローチはまだ不十分と感じますが、「大人のひかり」への参加や、活動のボランティア等を通じてきょうだいで会うことも増えました。少しづつきょうだい児の安心できる活動も広げていきたいと考えています。
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	1				引き続き、いつでもご相談や申入れをしていただきやすい雰囲気づくり、関係性づくりを心がけていきます。	
20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22					LINEやメール等、ご家庭の利用しやすい方法で行っていただいている。	
21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22					LINEやまちこみ等を利用し個別及び全体へ発信している。	

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22				面談時に確認しているが、その都度ご連絡して内容を伝えた上で再確認させていただいている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	21	1		・ヘルメットへの変更等、すぐに対応していただきありがとうございます。。	令和7年度、マニュアル類の見直しをいたしましたので、ご家庭にも共有して参ります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	1	1	・訓練もそうですが、予備業も備えています。	2ヶ月に1回は訓練を実施していますが、まだ利用時に実施できていない方もいるので全員が体験できるように考えていきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22				日々の活動、ヒヤリハット等を確認しながら全体で共有し改善の必要ところは実施していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21	1		・怪我等の経験がないのでわかりません。	小さな怪我等や出来事などもご報告させていただくことを心がけています。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	22			・毎日楽しみにしている。	ひかりっ子ファーストです！
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	22			・とても楽しみにしています。 ・ひかり大好きです。	より良い支援ができるよう、今後も努力してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22			・家族のことも相談に乗っていただいて感謝しています。 ・学校と連携してくれます。	多くの方に選んでいただける事業所であるために、職員一丸となって日々を積み重ねてまいります。



公表

事業所における自己評価結果



事業所名		希望のひかり		公表日		8年 3月 23日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2	活動ごとにレイアウトを変えている。	日によって手狭と感ずることある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2		基準は満たしているが、したい事を待たせてしまうことが多いと感ずる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	特に情報伝達は密に行っている。	もう少し子どもの目線でわかりやすい構造化が必要と感ずる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	3	隙間のスペースを使って	室内の整理整頓が必要。建替え必須。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	1	4	仕切り壁になっている。場合により場所を変える。	聴覚過敏の方、クールダウンの必要な方のスペースが必要。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		計画→実行→評価→改善の流れを各職員が意識をし日々の業務に取り組む。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		年度末にアンケートを実施し、その結果を踏まえて次年度で業務改善を行っていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		会議にて各職員が発言しやすい環境の設定。全体で協議し、すぐできるところから業務		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		年間または、シリーズを通して各職員の実施しやすい日を選べるようにしている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		アセスメントからストレング스에着目し、楽しみながら取り組める計画になるよう心がけている。	常にストレングスを活かし、スモールステップでの立案を心がける。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		全ての計画を全スタッフが目を通し意見出しをする。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		連携から得られる情報もしっかり確認しながら日々の支援に活かしている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		立案はチームで行うが、具体的には担当を決めている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		みんなで一緒に取り組める物、手作り感のあるもの等を多く取り入れている。	公共交通機関を利用した外出や体験。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5				

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		特に、発作等の確認事項、学校からの申し送り等の共有。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	それぞれ記録を入力しながら全体で振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		日々、確実に記録は残している。それを見返して検討することも多い。	個別支援計画に基づいた内容も残していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		基本的には6ヶ月の間でモニタリングだが、状況によっては早い段階で行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		子どものうちから正しいかたちでの「自己決定」ができることを目指している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		日常に関する年間計画や行事などの情報は共有できている。	災害時や送迎時のトラブル等、協議の必要があるので投げかけていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		サポートブックの活用や、必要であれば情報提供の準備はできている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	3	2		地域のお祭り参加や防災訓練への参加をしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5			
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		利用時の連絡帳もあるが、電話でお話することを細かく実施している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		今後ペアレント・トレーニングは実施していきたいと考えている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		いつでも相談対応しています。電話でも面談でも可能です。場合によっては関係機関に伝え会議の開催等実施。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	5		「大人のひかり」（両親・きょうだい児等誰でも参加可能）を1年に3～4回程開催、レクリエーションやトークセッション等の企画で交流している。	きょうだい児へのアプローチをもう少し具体的に考えていく必要がある。
41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情や困ったことも言いやすいような関係性づくりを日常から心がけている。		

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		まちこみやラインでご連絡している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	日常から多くの方が出入りできる環境のため、招待等はしていません。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			変更があった場合はその都度お伝えしていく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		2ヶ月に1回は災害状況を変えて実施している。	訓練を経験していない子どもがいないようにしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		てんかんは医師の指示書、ご家庭の同意書をいただいて発作があってもすぐに対応できるようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		令和7年度、法人全体でアレルギー対応の強化を図った。マニュアル作成から訓練まで行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		令和7年度、マニュアル類の見直しを行ったため、ご家庭と共有していく。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		会議ごとにヒヤリハット件数及び内容を確認し原因と対策を共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		職員が企画をし研修等実施をしていくことで、客観的に個々の支援を考えることができる様にしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		どのような場合、という日常であり得る例を挙げてわかりやすく説明しご理解いただいている。		